

# 大野和士が描く新世紀の音楽絵巻

大野和士 指揮

神奈川フィルハーモニー管弦楽団



現代作曲家シリーズ

## [曲目]

リゲティ/13人の奏者のための室内協奏曲

武智 由香/委嘱作品世界初演

シャリーノ/レチタティーヴォ・オスクーロ

イ キュボン (日本初演) ピアノ: 村山拓弘

李 圭鳳/管弦楽のための讃歌

(委嘱作品世界初演)

(演奏曲目等は変更となる場合があります)

2001年8月31日(金)19:00開演

横浜みなとみらいホール 大ホール (桜木町駅下車)

## [チケット]

S席 4,000円 A席 3,000円 割引 2,000円 (学生・シルバー65歳以上・障害のある方)

チケット発売日 2001年4月26日(木)

■チケットは下記のプレイガイドでお取り扱いします。

横浜みなとみらいホール 045-682-2000

チケットぴあ 03-5237-9990

ローソンチケット 03-5537-9955

神奈川フィル・チケットサービス 045-331-6699

県民ホールチケットセンター 045-662-8866

主催・お問い合わせ

財団法人 横浜市文化振興財団

TEL045-682-4108 FAX045-682-4145

E-mail:ycf@city.yokohama.jp http://www.city.yokohama.jp/me/ycf/

助成 財団法人地域創造「地域の芸術環境づくり支援事業」

芸術文化振興基金



この事業は、ジャンボ宝くじの売上金から助成を受けて実施するものです。

Just Composed 2001  
in Yokohama

# Just Composed 2001 in Yokohama

未来を切り開く作曲家に新作を委嘱し、  
演奏家の個性を活かしたプログラムでお届けする Just Composed シリーズ。

開港以来常に新しい文化を受け入れ発信してきた横浜から、  
次の時代に残る名曲を生み出し根付かせるコンサートです。

「未来を切り開く演奏会」への共感が魅力あふれる出演者・作曲家を横浜に集めました!

モネ劇場就任を控えた大野和士の指揮、日韓の2人の作曲家への委嘱。

刺激的な作品の鮮烈な演奏がいま生み出されます。

## 大野 和士 (指揮) ÔNO Kazushi, conductor



1960年生まれ。東京藝術大学にて指揮を遠藤雅古氏に師事。1986年9月よりバイエルン州立劇場にてウォルフガング・サヴァリッシュ、ジュゼッペ・パターネー両氏に師事。1987年にはアルトゥーロ・トスカニーニ国際指揮者コンクールで第1位を受賞した。1988年よりザグレブ・フィルの常任指揮者、1990年から1996年まで同楽団音楽監督・首席指揮者。日本においては東京都交響楽団の指揮者(1990年～1992年)、東京フィルハーモニー交響楽団の常任指揮者(1992年～1999年3月)。さらに東京フィルでは「オペラ・コンチェルタンテ・シリーズ」をプロデュースし、サリエリ《音楽が先か言葉が先か》、ツェムリンスキー《フィレンツェの悲劇》、ヒンデミット三部作、プロコフィエフ《炎の天使》、ショスタコーヴィチ《ムツェンスク郡のマクベス夫人》、シュレーカー《はるかなる響き》など、日本では取り上げられる機会が少ない作品を一貫して取り上げ、ヒンデミット三部作は1995年文化庁芸術祭大賞を受賞している。

1996年に音楽総監督(GMD)に就任したバーデン州立歌劇場(ドイツ・カールスルーエ)では、《オテロ》や《ドン・ジョヴァンニ》など、華麗な舞台・演奏を披露し、Das Orchester誌(1997年2月)に「大野の指揮であれば、オーケストラの一流の色彩が未来に向けて限りなく保証される」と紹介されるなど、その目覚ましい活躍が話題になっている。

また1999年9月のベルギー王立歌劇場(ブリュッセル、通称:モネ劇場)におけるガラ・コンサートでの成功を受け、アントニオ・パッパーノの後任として、2002年より同歌劇場の音楽監督に就任することが発表され、楽壇の話題の人となっている。

## 李圭鳳 (作曲家) Yi Gyu-Bong, composer



私にとって作曲とは、現在の感情や瞬間を音楽的に表現することです。自分の音楽に独自の表現方法を見出すことは、私の作曲活動において常に重要なことです。私は音楽的な着想や構成要素を、韓国文化からだけではなく、ドイツへの長年にわたる滞在を通して親しむようになったヨーロッパ文化からも創りだしています。かねて新ミレニアムのための作品を書くと考えていましたが、今回の委嘱によりそれが実現されることに大変感謝しています。

《管弦楽のための讃歌》では、より良い世界への私の願いや期待を調和させようと試みました。音楽はその世界の中心にあり、平穏な強さへと導くのです。

1961年韓国プサンに生まれる。ヨンナン大学作曲科を第1期生として卒業。イム・チャングン、イ・オンド、ギム・ソング、キム・スウォン各教授に師事。1983年に渡独。シュトゥットガルト国立音楽大学大学院作曲科を卒業後、チュービンゲン大学にて音楽学を学ぶ。カルコシユカ、ラッヘンマン、ユン・イサン、ヘルツキ各教授に師事。

その後チュービンゲン音楽アカデミーにおいて和声法及び現代音楽の講義を行う。1998年には韓国ペジュ大学、1999年にはヨンナン大学に招かれ、作曲セミナーを行う。

ダルムシュタット作曲コンクール(1987)、ポーツハイム作曲コンクール(1990)、第2回(1993)及び第4回(1995)プサン現代音楽祭コンクール管弦楽部門においてそれぞれ入賞。1994年、第4回ドイツ・バイエルン国際作曲コンクールにおいて《管弦楽とヴァイオリン・ソロのための歌》で単独入賞。1999年、第2回ドイツ・ハノーファー・ピエンナーレ国際作曲コンクールにて《室内楽の祭禮》で第3位入賞。この作品は2000年3月に東京で開かれた東京フィルハーモニー交響楽団主催の「新世紀記念音楽会」において演奏された。さらに同年、日本現代音楽協会と日本作曲家協会の招聘を受け、東京にてセミナーを行う。

また彼は、《管弦楽のための公理Ⅱ(AxiomⅡ)》で、第21回日本東京入野国際作曲コンクールに入賞。

現在ドイツを中心に作曲活動を行っており、彼の主要作品は「エディション・モデルン」により出版されている。ドイツGEMA協会(音楽著作権協会)会員。

## 武智 由香 (作曲家) TAKECHI Yuka, composer



この大きな世紀の節目に、作曲の委嘱を頂けたことを大変感謝しています。現代における西洋音楽の既成の概念や枠にとらわれないで、生きた「音楽」を創り出すには、どのような方法が可能だろうか? 日本に生まれ、今ここに生きる私が、どのようなアプローチで「世界」との関わりを持つことができるのか? そんな始源的な問いかけに意識を傾けるところから、音楽を創り出そうとしています。未知と未来—これからの時代への開かれたメッセージとして、このたび新しい「何か」を伝えられることが出来れば、大変に嬉しく思います。

1972年鎌倉生まれ。東京藝術大学音楽学部作曲科卒業、同大学大学院修士。作曲を近藤謙、高橋悠治、松平頼則の各氏に学ぶ。1996年在学中に、米国フロリダ州アトランティック・アート・センターに招聘。建築の磯崎新、彫刻の宮脇愛子、作曲の高橋悠治の各氏らと滞在、共同制作を行う。

1998年、フランスのクレモン・フェランとヴォルヴィック美術館の招待で画家の安達武生との共同作品展「Lumiere/Resonance/Pierre」を発表。静寂で独特な冥想空間を作り上げ話題になる。同展覧会は京都の町屋を巡廻し、1999年秋にはバリ・バスターユにて開催、NHKテレビで放送された。

同年、オーケストラ作品《テキストの出口》が第8回芥川作曲賞にノミネート。また、郡山市からの委嘱作品、オーケストラと児童合唱のための《四季のうた》を発表。

1999年、高橋悠治プロデュースの伝統楽器アンサンブル「糸」からの委嘱で、《調べ・遊び・訪い》を発表。同年、クアチアアのザグレブ国際現代音楽祭にてザグレブコントラバスデュオからの依頼で2本のコントラバスのための《Diacorus》を発表。1999年村松音楽賞受賞。

2000年には、ヴァイオリンの鈴木理恵子からの委嘱でソロヴァイオリンのための《春過》を発表、秋にはフランス・ニースのアルプ・マリチム県立美術館からの招待で薩摩琵琶と二十絃箏のための《La voie des fils—糸の道》が初演されるなど、最近では伝統楽器での試みも多く手掛けている。

作品はこれまでに新日本フィルハーモニー交響楽団、東京シティフィルハーモニック管弦楽団、新星日本交響楽団などの主要オーケストラ、そのメンバーによって演奏されている。空間の持つ響きの個性を生かした作曲、そこでの演奏の可能性、また演奏者の個性と身体性に興味を持ち、バレエ/ダンスやインスタレーション、映像など他ジャンルとのコラボレーションも積極的に展開している。

2001年にはリニアのリアニアチェンバー他で新作の発表を予定。現在は、日本とフランスを拠点に音楽活動を行っている。

## 選定委員

本年度委嘱作曲家 李圭鳳、武智由香の両作曲家は、大野和士、長木誠司、白石美雪の3氏により選ばれました。

### 長木 誠司 (CHÔKI Seiichi)

昭和33年(1958年)福岡生まれ。東京大学文学部美学芸術学科卒業後、東京藝術大学大学院博士課程修了。博士(音楽学)。1986-88年、ドイツ学術交流会(DAAD)の奨学生としてドイツのボンに留学。現代の音楽を多方面より研究。東邦音楽大学・同短期大学助教授を経て、現在、東京大学総合文化研究科助教授(表象文化論)。著書に「前衛音楽の漂流者たち—もう一つの音楽的近代」(筑摩書房)、「グスタフ・マーラー—全作品解説事典」(立風書房)、「フェルッチョ・ブゾーニ—オペラの未来」(みすず書房)、「第三帝国と音楽家たち」、共同監修に「武満徹—音の河のゆぐえ」(平凡社)など。

### 白石 美雪 (SHIRAIISHI Miyuki)

東京生まれ。東京藝術大学、及び同大学院修士過程修了。20世紀の音楽を中心に幅広く研究活動を展開している。音楽評論も手がけ、朝日新聞でコンサート評、CD評を担当。NHK-FMの「現代の音楽」の解説をつとめる。著作は「はじめての音楽史」(音楽之友社、分担執筆)、「武満徹—音の河のゆぐえ」(平凡社、分担執筆)など。論文多数。現在、武蔵野美術大学教授、東京学芸大学および国立音楽大学非常勤講師。

### 大野 和士 上記参照

## 大野和士 in 神奈川 INFORMATION

### 音楽堂 大野和士のオペラ・レクチャーコンサート ヴェルディ没後100年輝かしきオペラの魅力

- 出演 大野和士(トークとピアノ)、増田のり子、鳴海真希子、藤川泰彰、泉良平
- 日時 2001年8月19日(日)14:00開演
- 場所 神奈川県立音楽堂(桜木町駅下車徒歩10分)
- 曲目 ヴェルディ作曲「エルナーニ」「リゴレット」「椿姫」「仮面舞踏会」他よりアリアや重唱を予定。
- チケット 一般3500円 シルバー・学生2000円
- お問い合わせ・ご予約 音楽堂チケットセンター TEL045-263-2255

マエストロ大野が絶妙のトークを交えてヴェルディ・オペラの全貌と醍醐味を紹介!  
大野の華麗なるピアノと、新鋭歌手たちの瑞々しい歌声もお楽しみに。

### 鎌倉芸術館オーケストラ・シリーズ 2001-2002~ II BRAHMS SYMPHONY CONCERT II

#### 大野和士 指揮 東京フィルハーモニー交響楽団

- 日時 2001年8月26日(日)15:00開演・大ホール
- 曲目 ブラームス:交響曲第3番へ長調 Op.90  
交響曲第1番ハ短調 Op.68
- 料金 A席5,000円 B席4,000円 C席3,000円 D席2,000円
- お問い合わせ・ご予約 鎌倉芸術館チケットセンター TEL0467-48-4500